

故事成語 ③

むじゅん

矛盾

ずさん

杜撰

りゅうとうだび

竜頭蛇尾

たいきばんせい

大器晩成

おんこちしん

温故知新

せつさたくま

切磋琢磨

とうりゅうもん

登竜門

ごりむちゅう

五里霧中

意味

物事をつじつまが合わないこと。

物事がいいかげんなこと。

最初は勢いが良いが終わりは勢いがなくなる

偉大な人物が大成するには、時間がかかるという

昔の事を研究して、新しいことを知ること。

学問・精神を磨くこと。仲間が励ましあい向上すること。

立身出世のかなう関門のこと。

途方に暮れること。

故事

商人が「なんでも突き通す矛」として「なにも突き通さない盾」を売っていた。

※「撰」とは詩を作る

「杜黙」という詩人が作った詩は、様式に合わないものが多かった。

はじめは竜のような威勢の僧が、問答を重ねるうちに答えられなくな

鐘や鼎のような大きな器は簡単にはつくれず、年月がかかる。

「孔子が弟子達に述べた言葉。故きを温めて新しきを知る」

「切磋」とは角などを整え磨くこと、「琢磨」とは宝石などを整え磨くこと、どちらも仕上げの間に長時間かかる。

黄河上流にある「登竜」と呼ばれる急流を登り切った鯉は、竜になるとい

後漢の張楷は五里にわたる霧をおこし姿をくらす術を使った。